

あいなんちょう いせき 愛南町の遺跡 - 4 -

平成29年11月

愛南町教育委員会

ひらじょうかいづか みりよく かいづか まも どき せっきいがい どうぐ 平城貝塚の魅力 - 貝塚が守った土器や石器以外の道具2

せんかい
先回のパンフレットでは、どうぶつ ほね つの かい かこう ひらじょうじん み かざ
使用していた道具について紹介しました。今回は、にちじょうせいかつ ちやくせつかんけい かんが
道具について紹介します。



さいしょ しか まえあし しゃっこつ ほね りょう しゅりょう もくてき しょう かこうせい たか
最初は、鹿の前足の尺骨という骨を利用した、狩猟を目的として使用された可能性が高
い道具です。平城貝塚では、現在のところ3点だけ確認されています。

うえ しゃしん しょうぶぶん しめ ぶぶん はさき のみ だいくどうぐ
上の写真で、「使用部分」と示している部分が刃先にあたり、鑿という大工道具によく
似ています。ただし、鑿は片刃であるのが一般的ですが、この道具は両刃です。

これらについては、マグロ等の大型魚類やおおがたぎよるい こがた くじらるい しと
ています。また、写真の左端のものに比べて右端のものは刃先が短くなっています。刃先
が鈍っても、と なお つか つづ もの たいせつ ところ あらわ
研ぎ直して使い続けるという、「物を大切にすること」の表れかもしれません。



つぎ しょうかい しか つの かこう
次にご紹介するのは、鹿の角を加工した道具です。鹿角斧と言います。

ほんらい ふと ぶぶん
本来は、角の太い部分から枝別れした、小さな角の先端部だったのですが、残念ながら折れてしまっています。

ひだり しゃしん なか しょうぶぶん しめ
左の写真の中で、「使用部分」と示したところがすり減っていますので、ここを主に使っていたことがわかります。

みぎ
右の写真の中で、白い破線で囲った部分がすり減って、平らになっています。

ひらじょうかいづか げんざい
平城貝塚では、現在のところこの1点だけで、その他の貝塚でも多く出土するものではありません。

しやう
どのように使用されていたのかについては、北海道とそれより北の地域に住んでいた先住民の生活道具の中に、土を掘り返す道具として使われていた物と似た物があることから、土掘り具として考えられています。



つちほぐ かんが
左の写真のものは貝刃と言います。その名の通り、二枚貝の縁を打ち欠いてギザギザにし、刃物の様にしています。これについては、魚の鱗を剥がすために使われていたと考えられています。

かいづかいがい しゅつど
これらのように、貝塚以外では出土しにくい生活道具が数多く見つかるのが、貝塚の大きな魅力の一つなのです。

文化財の保護にご理解とご協力をお願いします！

文化財は、壊されてしまうと元に戻すのが極めて難しいものです。皆様のお住いの地域にどのような文化財があるかについては、教育委員会生涯学習課までお問い合わせください。…お問い合わせは、生涯学習課（電話0895-73-1112）まで。